

【神への憧れ】 **イエス・キリストの家族** スペイン・バルセロナ サグラダファミリア



スペイン人はキリストよりも聖母マリアの崇拝者だ。こうした感情はなにもこの国に限ったことではなく、世界中でマリア様はイエス・キリストより人気がある。ちなみにゴシック建築はフランスが発祥地だが、セーヌ川の中州シテ島に有名なノートル・ダム大聖堂がある。この名前の意味は「我らが貴婦人 Our Lady」のことなのだ。従ってイエスではなくマリア様を第一に祀っている教会はすべてノートル・ダム教会と呼ぶ。当然世界中にある。

←建設途上のサグラダファミリア

マリアはトルコのエフェソス公会議で(人間ではない)神イエスを生んだ女神としてAD431年にようやく聖人に列せられたが、父親のヨセフは放置されたままだった。旧約聖書によれば、ヨセフはアブラハムの系譜を踏む直系の子孫であり「マリアの結婚」の条項では、多くの若者が候補者として集まった中で、ヨセフの持つ杖の上だけに合格の花が咲いた。それを決めたのはエホバ(ヤハウェイ)の神なのに、神自らがマリアの子宮に精霊(神の精子)を送りこんで「受胎告知」となる。結果としてヨセフはマリアに何もしていないのにイエスが生まれた。だからその後は只の養父として扱われることになってしまったのだ。右下の絵をご覧ください。ラファエロの「羊のいる聖家族」だが、マリアは14歳、ヨセフは20歳なのに、このよぼよぼ加減はどうだろう。これなら子作りに役に立つまいとの意味合いが見え見えだ。

それでは不合理だとスペイン人がヴァチカンに訴え(聖ヨセフ協会を作って基金を集めた)、その嘆願が実ってようやく彼も聖人となる。AD1870年のことだ。それを記念して建設しているのがこの教会である。1883年の着工で127年経った2010年秋に、いまだ未完成ながらローマ法王がミサを行って正式にカソリックの教会に認定された。しかし完成はいつのことか見当もつかない。ヨーロッパ人は造り続ける事に意義を見出しているからそれでよいのかもしれない(でも最近では建設寄付や入場料収入が著しく増加し、あと20年もすれば竣工するかもといった見方もあるようだが)。日本語で聖家族教会という。ヨセフも晴れて家族として祀られることになった。鬼オアントニオ・ガウディの設計だが、設計図がないので余計時間を要している。



↑サグラダファミリア生誕の門の飾り

ラファエロ・羊のいる聖家族↑



[神への憧れ] **神社チェーンのNo1 お稲荷様** 京都・洛南 伏見稲荷大社

古代豪族秦(はた)氏が氏神を祀った神社。秦氏は朝鮮半島の百濟からの帰化人(一説では五胡十六国時代の前秦の王族が戦に敗れて、朝鮮半島経由で来日したとも言う)で、養蚕・製糸・機織りを中心に産業を興した一族である。京都駅の南側(東福寺の一駅南に位置する)にあるので北側にある諸寺院とは量的に劣るため観光客には足が遠いが、信者の列は毎日引きも切らない。稲の精霊(ウカの御魂の神)が主神。元々は耕作の神のはずだが、江戸時代になって商売繁盛の神となった。キツネがお使い姫になっており、全国稲荷神社の総本社である。

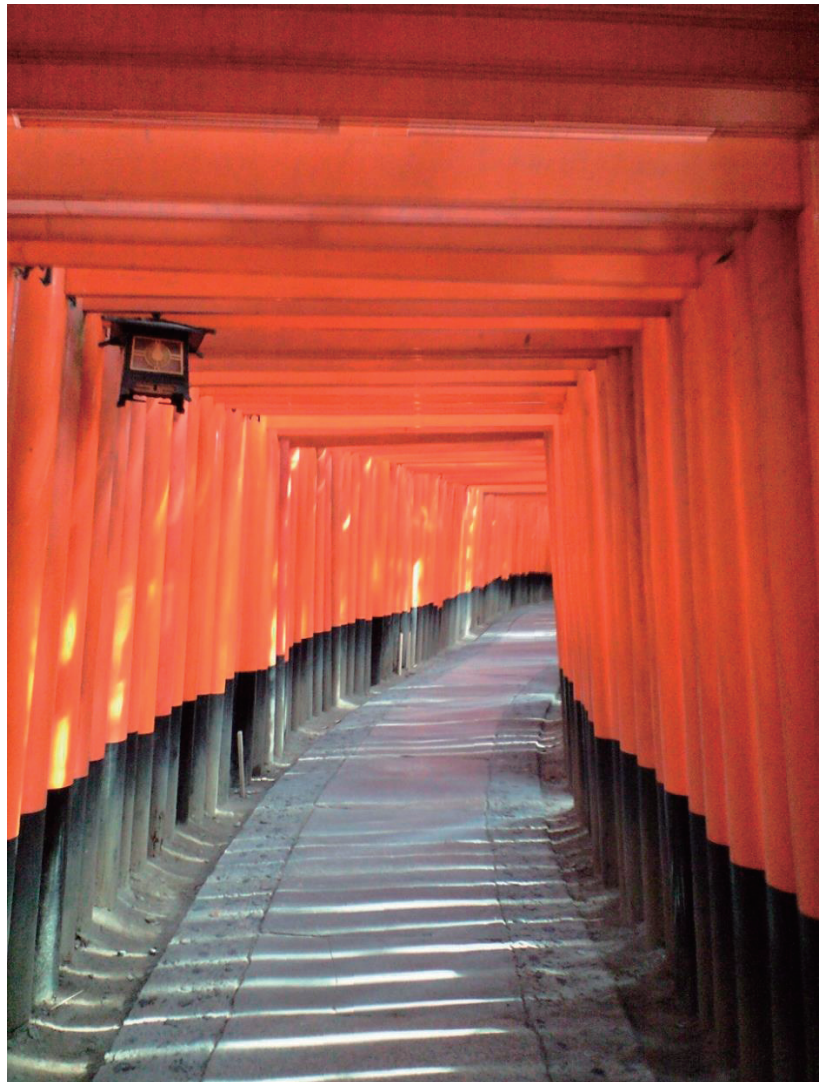
←伏見稲荷大社 本殿

稲荷神社の総数は全国第1位だ。ちなみに続くベスト5は、

**八幡神社**(大漁旗がはためく様子を表す言葉。海の神。15代応神天皇=ホムタワケも祀る。源氏の帰依。大分県:宇佐神宮) **天神社**(菅原道真の怨霊を神に祀り上げた。江戸時代に学問の神。現在は受験の神。京都府:北野天満宮)、**諏訪神社**(アマテラスの將軍タケミカヅチと争ったオオクニシの子タケミナカタを祀る。武門の神。長野県:諏訪大社)、**神明神社**(イザナギの子アマテラスを祀る。古事記・日本書紀に言う最高神。女神。三重県:伊勢神宮が本社)である。

神社はすべからずチェーン店のようなもので、全国に支店網が張り巡らされている。大別するとイザナギ系の全国区と産土(うぶすな)系の地方区とに分かれる。稲荷神社は地方区ながらその数において堂々の全国一位を占めている。経済的ご利益の魅力は、精神論的イメージのアマテラス系神明神社より日本人には人気があるということなのだろう。ちなみに前述の八坂神社はイザナギ系のうちの反アマテラス系に分類される。

No1を誇るからにはそれだけご利益があるのだろう。境内は小高い丘になっており、その中を千本鳥居の道が延々と続く。とても千本どころではない。ご利益のお礼に個人や企業がこの鳥居を奉納したものだ。写真では見えないが、この通路を反対側からみると、奉納した個人や会社の名前が鳥居の柱1本ごとに大書してあって、名前の氾濫に閉口する。



伏見稲荷大社 千本鳥居1